

男女共同参画情報誌
の創刊号発刊にあ
たり、市長に
インタビュー
しました。

市
長
に
イ
ン
タ
ビ
ュ
ー
し
ま
し
た。

市長、男女共同参画を語る

Q 鹿児島は「男尊女卑」のお国柄だといわれますが、川内市の現状について、市長としてのどのように考えられますか

鹿児島は「薩摩の国」の時代の流れ、つまり武士・武家社会からの封建制が底辺に流れ、家庭や社会を築いてきたと思います。戦後、女性の地位も様々な機会を経て向上してきてはいますが、まだまだ「女性は、家庭を守って、子育てをして」という考えの方が、昨年来年市民を対象に実施した意識調査の結果をみても多いようです。地域の集会などでも男性優位の雰囲気を感じられることがありますね。

Q 市長が、選挙公約の一つに「男女共同参画社会の実現」を掲げた理由をお聞かせください

市長に就任する前に、地域の皆さんと話をする機会がありました。そこで、女性が育児や介護などを理由に社会に

出て行けない現状や、「おんな女んもんのでしゃばって」という地域の目があるというご意見を多く耳にしました。世の中、女性の方が半数を越えているわけですから、女性の社会へ参画していく道を行政が開いていかなければと思っただけです。地域の中に溶け込んで話を聞いたことから、男女共同参画政策はスタートしたと思っています。

Q 県下96市町村のトップを切つて、男女共同参画基本条例を制定されましたが、その意気込みをお聞かせください

平成8年に市長に就任してから、自分の考えを政策のなかに反映させていくために、女性政策係を設置し、県内でもいち早く「男女共同参画プラン」を策定するとともに、部課長に対する研修会なども実施しました。しかし、男女共同参画社会を実現するためには、行政だけの取り組みでは不十分です。男性も女性もお互いに尊重しあつて、



その能力を社会のために貢献できるようになまちづくりをしていくにはどうしたらよいか、それには規範になる条例が必要なのではないかという考え方がたどりついたわけです。市民のみなさんにあらゆる分野で能力を発揮していただき、川内から情報を発信して、他市町村をグングン引っ張っていこうと思っています。

Q 市民の意識改革に対する市としての具体的な取組みをお聞かせください

特に戦前・戦中の教育を受けた方々

には受け入れ難い面があると思います。が、趣旨をきちんと説明しお誘いすれば、色々な研修会にも出席していただけるのではないのでしょうか。まずは、男女共同参画について知っていたからこそ始めなければなりません。そのためにも、皆さんが積極的に参加できる企画を立案し、また啓発もしていかなければならないと考えています。

Q 出生率、人口増加率アップのための施策について、市長のお考えをお聞かせください

今、川内市の合計特殊出生率（一人